

＜ 運営推進会議における評価 ＞ ※公表用

【事業所概要】

法人名	医療法人鳥伝白川会	事業所名	看護小規模多機能型居宅介護ゴン
所在地	(〒906-0006) 沖縄県宮古島市平良字西仲宗根 1496-7		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

- ・主治医と看護小規模多機能居宅介護事業所(看多機ゴン)の密接な連携の下、医療行為も含めた多様なサービスを24時間365日利用することができる
- ＊がん末期の看取り期・病状不安定期における在宅生活の継続支援、家族へのレスパイトケア、相談対応による不安の軽減、退院後の在宅療養生活へのスムーズな移行支援
- ・看護小規模多機能居宅介護事業所の介護支援専門員が「通い」「泊り」「訪問(看護・介護)」のサービスを一元的に管理するため、利用者や家族の状態に即応できるサービスを組み合わせることができる

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2022 年 1 月 15 日	従業者等自己評価 実施人数	(16)人 ※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	---------------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2022 年 1 月 15 日	出席人数(合計)	書面にて意見集約
書類配布(内訳)	■市職員(1人) ■地域包括支援センター職員(1人) ■地域住民代表者(1人) ■利用者家族(1人) ■自治会長(1人) ■知見を有する者(1人) ■居宅介護支援事業所職員(1人)		

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	① 理念、目標を利用者と共有していく 取り組みをする ② ひと（利用者・家族・職員）を大切 にした環境づくり	① 新入職者オリエンテーションでの 理念、目標管理の説明。勉強会、カ ンファレンスの中で理念をもとに話 し合いを進める。介護計画書の中に 理念を盛り込む ② 有休取得状況を管理し勤務表作成 に反映。働きやすい職場づくりにつ いて勉強会開催。男性職員の看護休 暇取得。コロナ感染対策（感染防護 具の準備、ワクチン接種体制整備、 特別休暇対応）。腰痛予防ストレッチ 実施	① 職員一人一人が事業所の理念を利用 者との関わりの場面に落とし込み行動す ることができた。そのため、話し合い やケアの方向性を統一することに繋が った ② 職員の離職者、病欠者は出ず、職員 が健康で、互いを大切にしながら働け ている。法人としての取り組みやコロ ナ禍においての対応も含め職員が安心 して働くことができる環境づくりがで きたと評価する	
II. サービス提供等 の評価	1. 利用者等の 特性・変化に応 じた専門的な サービス提供 (評価項目 11 ～27)	① 本人・家族の意向を取り入れた介 護計画書の作成、実施、評価をする ② 安全なサービスを提供する ③ 感染予防や健康管理を徹底する	① サービス担当者会議に他職種で参 加し、利用者・家族の意向を直接確 認する機会を持つ。送迎時、訪問時 に家族と積極的にコミュニケーション をとり情報を得ている ② インシデント報告・対策の立案評 価の徹底、KYT研修、ハラスメン ト研修、安全運転への取り組み ③ 必要な感染予防策をケアごとに提 示。感染予防の指導教育。職員・利 用者の健康チェックの徹底。体調不	① 利用者、家族の意向を取り入れた 個別性のある計画が立案されるよう になった。しかし、状態が変化した ときの計画の変更修正が遅れがちな ため改善していきたい ② 安全に対するスタッフ間の意識の 向上にむけ取り組んだ。安全なケア の提供のため、今後も継続して取り 組んでいく ③ 感染対策と体調不良時の有給取得 を徹底し、職員が安心して働くこ とができているにつながったと評

			良時の対応の徹底。訪問時用の個人防護具セット常備	価できる
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	① 会議形式以外での柔軟な連携の形を構築していく	① 事業所外部とは会議は紙面配布形式、電話、FAX、メールを活用。内部では少人数でのミーティング、グループLINE活用。利用者の状態申し送りには動画、写真、利用者日報も活用	① 様々なツールを使用し、情報共有に活かすことができた。しかし、新規利用者の把握には情報と実際に差がみられることもあり、課題は残る
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	① 地域住民の方々との交流場面で気軽に看護、介護相談ができる関係づくり ② 事業所として地域への奉仕活動を実施	① 自治会役員会、老人会参加。事業所の紹介の機会を持った。情報交換、相談者への対応 ② 自治会の地域清掃活動に参加。事業所周辺道路清掃。民生委員と協働し災害訓練を実施	① 地域の方々との交流の機会が少しづつ増え、事業所の機能を知ってもらい、介護相談を受けることもあった。また、地域の方から情報交換の誘いを受け、地域の抱える課題など知ることができた ② 災害時に備え、民生委員とも今後連携をとり活動できるような関係づくりができたため、次年度の活動につなげていきたい
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)	① 個別性のある介護計画の作成と計画に沿ったケアを実施する ② 今後どのように暮らしていきたいかを確認しながら意向に沿ったケアを実施する	① サービス担当者会議に多職種で参加。利用者・家族の意向を確認し、計画に反映。個別性を重視した目標設定 ② ケアミーティングやカンファレンスで情報共有し、統一したケアについての話し合い	① 職種間の専門性を活かし多方面から利用者、家族をアセスメントし、医療依存度に左右されることなく利用者、家族を中心としたサービス調整ができた ② コロナ禍でのサービス変更と家族の協力により在宅生活を継続していくことができた。今後はこれまでの対応をマニュアル化し、利用者が安	

			心して暮らしていける体制づくりを 確立していく必要がある
--	--	--	---------------------------------

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目		評価結果	改善計画
I. 事業運営の評価 (評価項目 1~10)		<p>職員一人一人が専門職として事業所の理念を利用者との関わり合いの場面に落とし込み行動することができた。そのため、話し合いやケアの方向性を統一することができた。次年度は事業所と地域をつなぐ視点を強めていきたい</p> <p>職員の離職者、病欠者は出ず、職員が健康で、互いを大切にしながら働いている。法人としての取り組みやコロナ禍における対応も含め職員が安心して働くことができる環境づくりができた</p>	<p>① 職員一人一人が事業所の理念と地域における役割を理解した行動がとれる</p> <p>② 専門職として統一したケアを提供するためスキルアップを図る</p> <p>③ 職員が安心、安全に働くことができる環境の定着</p>
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11~27)	<p>利用者、家族の意向を取り入れた個別性のある計画が立案されるようになった。しかし、状態が変化したときの計画の変更修正が遅れがちのため改善していきたい</p> <p>安全なケアの提供に対してはスタッフ間の意識の向上にむけ活動した。しかし、危険予知に対する意識と行動の定着化に向けてはさらに強化していく必要がある</p> <p>安心して働く事に関してはコロナ禍ではあったが感染対策を徹底し、体調不良時の有休取得、特別休暇の対応など迅速に行ったことで職員の安心につながった</p>	<p>① 利用者、家族に寄り添い意向を把握する</p> <p>② 多職種の専門性を活かしたその人らしい生活を支えるためのケアの提供</p> <p>③ タイムリーな介護計画書の作成、変更</p> <p>④ KYTによる安全文化の醸成</p>
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28~31)	<p>様々なツールを使用し、情報共有に活かすことができた。しかし、新規利用者の把握には情報と実際に差がみられることもあり、課題は残る</p>	<p>① ケアマネ連絡会や介護福祉士の会などに参加し、横の連携を図る</p> <p>② コロナ禍での新規利用者受け入れ時、退院調整時の情報交</p>

			換方法の構築
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32~41)	<p>地域の方々との交流の機会が少しづつ増え、事業所の機能を知ってもらい機会を得たり、介護相談を受けることもあった。</p> <p>また、地域の方から情報交換の場を設けて頂き、地域の抱える課題など知ることができた</p> <p>災害時に備え、民生委員と連携をとり活動できるような関係づくりができたため、次年度の活動につなげていきたい</p>	<p>① 自然災害発生時、新型コロナウイルス感染症発生時の事業継続計画（BCP）策定と運用</p> <p>② 事業継続計画（BCP）を地域で共有する仕組みづくり</p> <p>③ 地域の抱える課題に対し、解決に向け事業所全体で一緒に取り組む</p>
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42~44)	<p>職種間の専門性を活かし多方面から利用者、家族をアセスメントし、医療依存度に左右されることなく利用者、家族を中心としたサービス調整ができた</p> <p>コロナ禍でのサービス変更と家族の協力により在宅生活を継続していくことができた。今後はこれまでの対応をマニュアル化し、利用者が安心して暮らしていける体制づくりを確立していく必要がある</p>	<p>① 介護計画目標達成率 70%を目指す</p> <p>② 利用者、家族のサービス利用に対する安心感についての調査を実施し、事業所内で共有する</p>	

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている	○				<ul style="list-style-type: none"> ・理念と実践がしっかり取り組んでいる事は素晴らしいです。今後もよい支援の継続をして下さい ・「よりそう介護・看護」ができています 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
		[具体的な状況・取組内容] <ul style="list-style-type: none"> ・①～⑤全てを含む理念が明確にあげられている ・理念は事業所内に掲示し、いつでも確認できる ・介護職員の略痰吸引等資格を積極的に取得できる環境を整えている ・医療ニーズの高い利用者の受け入れ時は看護師、介護士の連携を密に対応している ・退院後泊りサービスを利用し、段階的に在宅へ移行するなど利用者や家族の状況に合わせた利用を提供している ・ボランティア活動として、地域の環境清掃や老人会などに参加し顔の見える関係性を作っている 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理念等に基づいた介護計画書の作成 ・新入職者オリエンテーションでの説明 ・利用者の体調変化時や家族の急な依頼にサービス内容を即変更、対応 ・定期的に勉強会を行い、確認 ・ミーティングやケースの振り返りの場面で理念をもとに意見交換 					
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標管理、人財育成システムを作成活用 ・管理者とスタッフの目標面談（個人面談）を3回/年実施 ・スキルアップに向けた研修、資格取得 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		を面談時に確認 ・個人に合わせた明確な育成計画はない					
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している		○			<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の研修計画を実践されている事に頭が下がります。がんばって下さい ・利用者の口腔内に関心が高く、「口から食べる」ことへのスタッフ間での知識の共有、教育がされている ・年1回の口腔健康・ケアについての研修会実施を提案します 	✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部研修の情報提供、研修参加への声かけ ・研修受講は希望に合わせ勤務調整 ・介護職員喀痰吸引等研修、認知症研修などは勤務扱いで参加 ・内部研修として勉強会を1回/月勤務扱いとして開催 ・職種により研修機会にばらつきがあるためスタッフ全員平等には参加の機会を与えられていない ・ZOOM研修、オンデマンド研修、インターネット配信研修を個人が自由に受けれる環境を整えている（パソコンの貸し出し、eラーニングの個人ID取得） 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 申し送りノート、利用者の状態を申し送る日報、朝礼、終礼での情報共有 ・ ケアミーティングで各職種の意見交換と方向性の確認 ・ 利用者の状態変化時、問題発生時は出勤者のみでカンファレンスし、タイムリーに対応、情報共有 ・ 介護計画書作成時やモニタリング時に担当者が中心となり各職種間で意見交換し、ケアの方向性を統一 					
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍にて集まったの開催は1回のみ、他は紙面での報告にとどまっているため、要望や助言を聴く機会が限られていた ・ インシデント報告で、高齢者支援課よ 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		<ul style="list-style-type: none"> り事故報告提出の助言をいただき提出 ・委員から個別に助言をもらい、民生委員と防災訓練を実施 ・自治会役員会や老人会に参加し、地域の方々と交流 					
③ 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている	○				<ul style="list-style-type: none"> ・いつも明るく、声かけあつて、笑顔で対応している様子が伺える 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就業規則が整備されている ・有給休暇取得の推進 ・個人の希望を踏まえた勤務表作成 ・急な勤務変更にも職員間での協力体制ができています ・コロナ禍に合わせた特別休暇の設定 ・男女問わず看護休暇取得の推進 ・予防接種（インフルエンザ、コロナワクチン）の体制確立 ・上司、同僚に相談しやすい環境である ・休憩時間の確保、時間外勤務時の対応の徹底 ・ハラスメントに対し就業規則に明示、 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		個別事例にも対応					
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている		○			<ul style="list-style-type: none"> ・どの利用者のこと尋ねても即対応し情報が徹底されているのが伺える ・口腔ケア、処置などの歯科の介入がスムーズであり、訪問診療、指導がしやすい環境である 	✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保の		○			<ul style="list-style-type: none"> ・インシデントや事故対策等その都度確認し、対応できる 	✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	ため、事業所においてその具体的な対策が講じられている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <ul style="list-style-type: none"> ・安全チームを作り、インシデント、KYT、感染の役割を任命 ・インシデントは書面に起こし報告内容を共有。対策について話し合い、立案実施、評価 ・安全運転への意識向上のため、出発前の声出しや車間距離の表示などの取り組み ・ハラスメントに関する勉強会を行い知識の共有 ・全車両にドライブレコーダー設置 ・月2回の車両の傷、タイヤの減りチェック ・安全運転管理者講習受講 				事はすばらしい管理だと思います。がんばって下さい	対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている		○			<ul style="list-style-type: none"> ・BCP 作成は多くの事業所で取り組み中だと思います。今後の取り組み強化に期待します 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <ul style="list-style-type: none"> ・事業継続計画（BCP）は作成できていない ・台風時対応マニュアル、チェックリストが作成され、毎年見直し、掲示 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		<ul style="list-style-type: none"> ・職員の緊急連絡網、利用者の連絡先リスト一覧の更新、掲示 ・消防訓練を2回/年実施 ・沖縄県主催の災害訓練を民生委員とともに実施 ・発電機を設置 					
II サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります
		[具体的な状況・取組内容] <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャーと情報共有しながら家族の介護負担や夜間の介護状況など情報を得ながらサービスに反映 ・モニタリング時は担当職員が本人、家族、職員から聞き取りアセスメント ・担当者会議には各職種が参加し本人、家族の意向を直接確認 ・家族の体調や介護状況を送迎時や訪問時に確認しながら、アセスメント 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
						<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング時も利用者や家族の要望を聞き取り、介護計画書の更新を行っている ・介護計画書の内容を説明、プリントし、目標を共有 	
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている		○			<ul style="list-style-type: none"> ・胃ろう、経鼻など経管栄養の利用者の口腔状態の把握、口腔ケアがなされている 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
② 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている		○			<ul style="list-style-type: none"> ・状況変化の予測は時に難しいときがあると思いますが、おおよそできているという事はすばらしい支援だと思います 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護にお
						<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の身体状況の変化を職員間で共有しケア内容を変更している ・利用者の個々の能力維持のため下肢の運動、発声の訓練、歩行訓練等を行っている ・サービス主体ではなく、利用者主体の計画を作成するようにしている 	
						<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体調管理やリスク管理について、病状進行の予測を看護師に確認しながら介 	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		護計画を立案しているが職員間でばらつきがある ・状況変化の予測やリスク管理について計画書に記載されていないことがある					いては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている		○				✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・利用者の状況変化の経過がわかる利用者日報や申し送りノートを活用し情報共有に役立てている ・介護計画書のケアが継続できていない場合やカンファレンスで話し合ったケアの計画書への反映が遅れがちである					
③ 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している		○				✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
		[具体的な状況・取組内容] ・ケアマネジャーが定期的に訪問したり、家族と常に連絡を取りあい生活状況の変化を把握 ・送迎時、訪問時に家族とコミュニケー					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		ションを取り生活状況を把握 ・非常時はタイムリーにサービス内容を変更					
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている		○				✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
〔具体的な状況・取組内容〕 ・担当者会議に多職種で参加し状況の確認、情報交換、情報共有をしている ・主治医へは定期受診前に情報発信し、連携を取り意見交換している ・体調変化時は都度主治医と連絡し、早期に対応 ・治療内容によってはサービスを変更して対応している ・訪問担当看護師と施設内担当看護師間で情報共有している							
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かし		○				✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	ながら、柔軟な役割分担が行われている	<u>【具体的な状況・取組内容】</u> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の体調変化時には訪問先からでも介護士から看護師へ連絡し即対応している ・看護師の指示のもと介護士がケアを実施。医療行為は介護士ができる範囲と看護師が行うべき範囲を明確にし実施 ・困ったときや改善点など両職種で話し合い、意見交換し調整 					を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている		○				✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・		○				✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」につ

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている	[具体的な状況・取組内容] <ul style="list-style-type: none"> ・新規利用者受け入れ時には疾患についての勉強会開催 ・ケアに関する手順は口頭で説明伝達したり、手順書を作成したり、動画で共有したり工夫している ・介護士が行うケアを看護師に引き継ぐために画像に残し申し送りやすいよう記録方法を統一 					いて、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] <ul style="list-style-type: none"> ・サービス計画書、介護計画書を作成し、本人、家族に説明し同意を得ている ・サービス内容はその都度説明し理解を得ている ・説明と同意はキーパーソンへの説明を必須としている 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・計画内容を具体的な言葉で載せ、説明、同意を得ている					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・看護師が主体となり、家族への指導やアドバイスをしている ・喀痰吸引等資格を取得している介護士は訪問時アドバイスをすることもある ・自宅で使用する物品の管理は看護師が主治医と家族の仲介となり調整					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表		○				✓ 「サービス提供への適切な反映」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	示ができない場合は家族等の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している						について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] <ul style="list-style-type: none"> ・本人や家族の意向を確認しながら、変化に合わせ対応している ・家族の急な変更希望にも柔軟にサービス調整を行っている 					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャーが中心となり家族や利用者話し合いできている ・考えられるリスクや対応の仕方などカンファレンスを行いスタッフ間で共有している 					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
		[具体的な状況・取組内容] <ul style="list-style-type: none"> ・主治医と情報共有し、医師に家族の状況に合わせた説明を依頼したり、診療の同席をしている 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		・説明内容や、家族の反応を記録に残し共有している					
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
③ 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊	○					✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている						との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
④ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	○					✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
(2) 多職種との連携体制の構築 ① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等		○				✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	への情報提供や提案が行われている	<ul style="list-style-type: none"> 意見交換や助言、提案をいただく機会が少なかった 自治会長や民生委員と個別に情報交換する機会を持つことができた 					<p>の充足度を評価します</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている		○			<p>✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します</p>	
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動報告や予定、インシデント報告など運営推進委員へ定期的に発信 コロナ禍で紙面報告が多いため、活動の様子を画像として載せるなど伝達方法を工夫した 市役所や地域包括支援センターでは部署内で回覧し、情報提供している 					
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、		○			<p>✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です</p>	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <ul style="list-style-type: none"> ・地域清掃活動への参加を通し地域住民との顔の見える関係性づくりができた ・自治会の役員会や老人会などへ参加し事業所の紹介や情報交換の機会を得た ・ホームページをリニューアルし、事業所の概要や実際の利用の様子を詳しく載せた ・ゴン便りを定期的に発行し利用者、運営推進委員に配布し利用状況を可視化できるようにしている 					<ul style="list-style-type: none"> ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している		○			<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <ul style="list-style-type: none"> ・併設の訪問看護事業所では依頼があれば積極的に受け入れを行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よく

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
							できている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	○					<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得を職員に積極的に勧め、取得する環境を整えている ・介護スタッフの9割以上が有資格者 ・有資格者が増え、吸引が必要な方の泊り、訪問介護にも活かしている 					
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている			○			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで受け入れしたことはないが台風時の受け入れや、人工呼吸器離脱に向けたショートステイを検討したケースがあった 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		・受け入れには看護体制を整えていく必要がある					
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している			○			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・事業所として地域包括ケアシステムにおいて重要な役割をもっていることは全職員認識できている。しかし、個人					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		差はある ・勉強会開催や資料の配布					✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	○					✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている			○			✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		員全体で活動していけるような体制づくりをしていく					課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問時家族に相談を受けた場合は都度アドバイスできている ・ 訪問時に介護方法を指導し、介護力を引き出せるよう取り組んでいる ・ 近隣住民に対しては取り組みができていない ・ 指導だけでなく家族とケアを一緒に行かないアドバイスをすることもある 					

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ②. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・個別性のある目標やケア計画を立案し、達成できるよう取り組んでいる ・介護計画は利用者によるが3～6カ月毎にモニタリングで評価はできている		✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	①. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・医療依存度が高い利用者でも365日24時間対応していることで安心につながっているという声が聴かれる	・素晴らしいです ・利用者、家族とも「安心」できる環境が提供されている ・外来診療への紹介など家族とのコミュニケーションが十分なされている	✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		<ul style="list-style-type: none"> ・体調変化に合わせたサービス調整を行えるため、在宅での療養を継続できるケースも多くある 		
44	<p>○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている</p>	<p>①. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない 5. 看取りの希望者はいない</p> <p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末期には訪問回数を増やしたり、家族への声掛けや傾聴を行い、不安解消につなげている ・事業所内での看取りはまだなし ・主治医との連携を密にとっていることで不安なく看取れたとの言葉が聞けた 	<ul style="list-style-type: none"> ・素晴らしいと思います 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します ✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます ✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」